

中学校

平成 9 年 度

教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

平成9年度

教育研究員名簿（特別活動）

分科会名	区市町村名	学 校 名	氏 名
第1分科会 学級活動	文 京	第九中学校	小木曾 久 泰
	大 田	大森第一中学校	田 井 俊 行
	練 馬	大泉北中学校	向 後 克 通
	江 戸 川	東葛西中学校	○ 桑 原 利 治
	小 金 井	小金井第二中学校	山 田 美 鈴
	保 谷	柳 沢 中 学 校	青 木 由美子
	狛 江	狛江第三中学校	穴 田 治 夫
	三 宅	阿 古 中 学 校	土 井 裕 二
第2分科会 生徒会活動	新 宿	牛込第二中学校	松 本 明 彦
	江 東	東 陽 中 学 校	古 館 朗
	世 田 谷	玉 川 中 学 校	富 井 嘉 子
	澁 谷	代々木中学校	原 口 直 巳
	板 橋	板橋第三中学校	関 口 義 和
	足 立	第 四 中 学 校	◎ 西 口 貞 義
	八 王 子	横 山 中 学 校	山 中 洋 介
	あ き る 野	秋 多 中 学 校	山 口 幸 裕

◎ 世話人 ○ 副世話人

担当 教育庁指導部中学校教育指導課指導主事 和 田 孝

目 次

I	主題設定の理由	2
II	第1分科会『進路の学習を通して、目的意識をもって主体的に 生きていこうとする生徒を育てる学級活動の工夫』	
1	副主題設定の理由	2
2	研究の内容	
(1)	研究構想図	3
(2)	授業研究	
	実践①『ライフプラン』を用いた、3年間の進路学習への導入	4
	実践②目的意識をもたせる『上級学校調べ』の導入	10
3	研究のまとめと今後の課題	13
III	第2分科会 『生徒会活動に生徒一人一人が自主的・意欲的に 参加するための指導の工夫』	
1	副主題設定の理由	14
2	研究の内容	
(1)	研究構想図	14
(2)	生徒会活動に対する生徒意識アンケート	15
(3)	自主的・意欲的に参加するための指導の工夫	17
(4)	活動の実践例	
	実践例1 広報活動に重点をおいた地域美化活動の指導の工夫	18
	実践例2 生徒会役員の学習活動に重点をおいた「リサイクル活動」の指導の工夫	19
	実践例3 広報活動に重点をおいた使用済みカード回収運動の指導の工夫	21
	実践例4 生徒会本部から学級への指導に重点をおいた人権尊重学習の指導の工夫	22
	その他の実践例 ① 身障者運動会でのボランティア	23
	② ユニセフ学習活動を通しての募金活動	24
3	研究のまとめと今後の課題	24

I 主題設定の理由

これからの中学校教育においては、価値観が多様化し、変化の激しい社会に主体的に対応し、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ教育の実践が強く求められている。

高度情報化社会の中で、生徒たちは、擬似的・間接的な体験の機会は多くなったが、反面、自然に触れることや勤労・奉仕的な体験などの生活体験が不足している実態がある。また、家庭・地域においては、少子化や都市化現象などにより子どもたちの集団による遊びが消え、大人とのふれあいの機会も少なくなってきた。学校においても、受験競争や知識偏重の考え方などにより、自己中心的で社会性に欠ける生徒が増える傾向が見られる。これらの課題解決のために、望ましい集団活動を通して生徒の社会性や個人的資質を育成することが大切であり、特別活動の役割は大きいと考える。

そこで本年度の特別活動の研究では、学級活動における進路学習やボランティア活動体験などの体験的活動を取り上げ、生徒一人一人が自主的・実践的な活動を進め、お互いに認め合い協力する集団の中で、自己実現を図ることを目指した。

第1分科会では、学級活動における「進路の学習を通して、目的意識をもって主体的に生きていこうとする生徒を育てる学級活動の工夫」を副主題とし、進路学習のそれぞれの活動の目的や内容について理解を深め、積極的な参加態度を身に付け主体的に生きていこうとする生徒の育成を図ることをねらいとして研究実践を行った。

第2分科会では、「生徒会活動に生徒一人一人が自主的・意欲的に参加するための指導の工夫」を副主題とし、学校や地域で行われるボランティア活動体験を通して、生徒が自発的・自治的な生徒会活動をするために生徒自身の企画や運営を支援し、その成果を評価する指導の工夫などについて研究実践を行った。

II 第1分科会

副主題「進路の学習を通して、目的意識をもって主体的に

生きていこうとする生徒を育てる学級活動の工夫」

1 副主題設定の理由

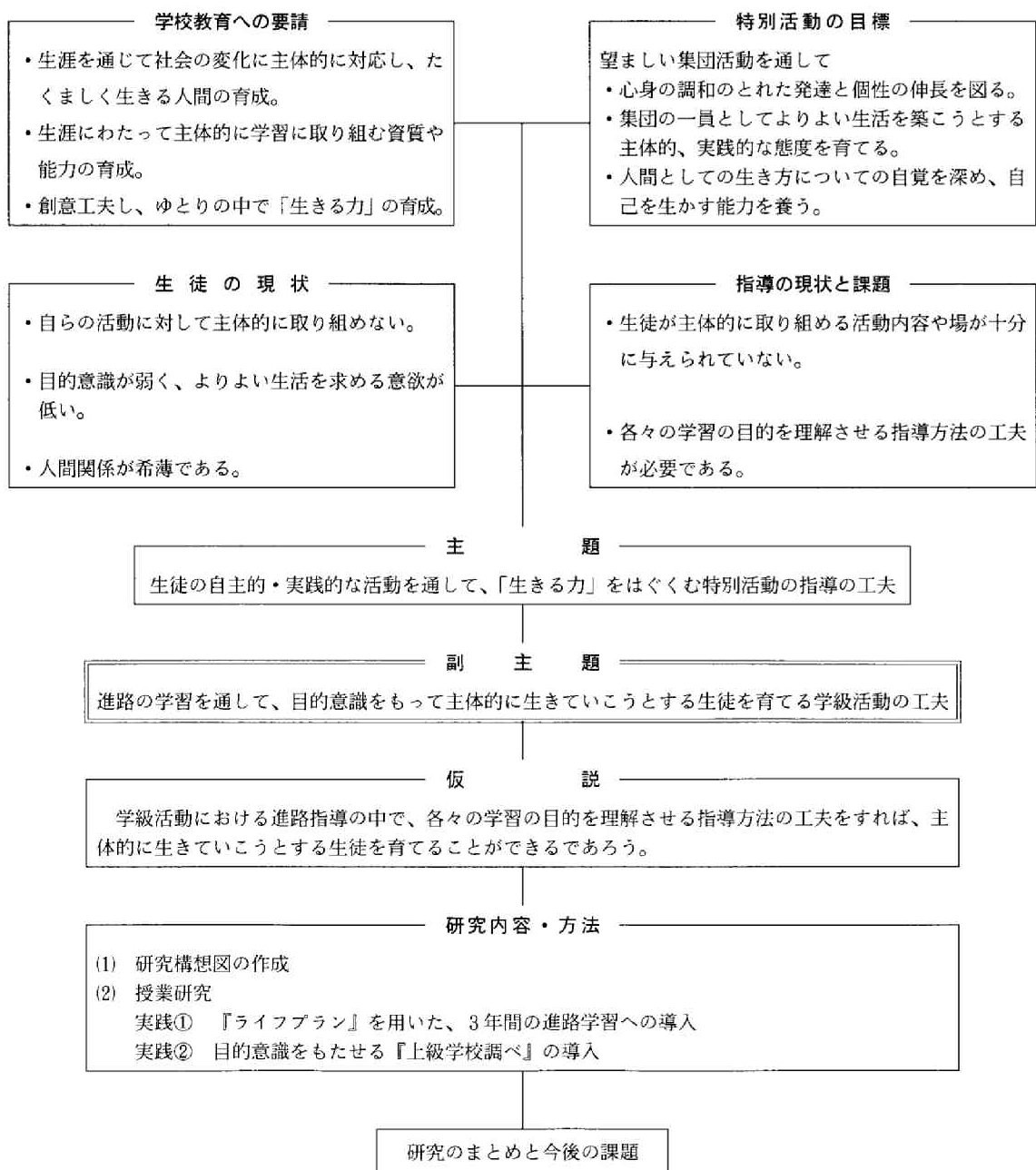
変化が激しい、これからの社会に対応し、たくましく生きるためには、生徒一人一人が主体的に自らの課題を発見し、自ら判断し、行動していくことが強く求められている。このような課題を設定する意欲や能力、判断力、行動力をもつためには、一人一人の生徒が自分の将来の目標や日々の活動への目標を明確にしていることが、基本的に必要であると考えられる。このことから、生徒に求められる『生きる力』として、目的意識をもって主体的に社会や集団にかかわり、生きていこうとする態度であると考えられる。

また、現状の中学校の進路指導においても、各々の学習の目的を理解させることができないまま、指導内容や方法が形式化し、学力のみによる進路選択になることが多いため、将来の自己実現にむけての目的意識をもたせる指導につながっていない。各々の学習の目的を明確に理解し、自らの課題を設定し、目的意識をもって、集団の中でお互いの課題を踏まえて、活動することにより、主体的に生きることの大切さを学ばせたいと考える。

本分科会では、学級活動において進路学習を展開する上で、各々の学習の目的を生徒一人一人が理解するための指導方法の工夫・改善が必要であると考え、本副主題を設定した。

2 研究の内容

(1) 研究構想図



(2) 授業研究

実践① 『ライフプラン』を用いた、3年間の進路学習への導入

① 指導計画

ア 題材名 第一学年 「ライフプランについて考えよう」

イ 題材設定の理由

進路計画を立てたり、自分史や「ライフプラン」を作成する学習は、「職業調べ」や「働くことの意義」など、進路情報の理解や望ましい職業観の形成のあとに題材として取り扱っていることが多い。しかし、多様化している生徒の進路に関わる意識に対応するため、始めに「ライフプラン」を作成、発表する活動を行い、それに基づいて、以後の活動の内容、過程を柔軟にすることとした。

この活動において、生徒が相互に啓発して自己の進路に関する未知の部分を実体化し、「課題の明確化（今後の進路学習の必要性や夢をもつことの大切さに気づかせる）」や「意識の共有化（不安や悩みを共有する）」

を図ることができ、生徒が今後の進路学習の意義を理解し、必要感をもつことができると考え、本題材を設定した。

ウ 指導のねらい

(ア) 級友の様々な進路計画を聞き、自分も夢をもとうとする意欲や態度（＝自らの目標を設定し、目的意識をもって主体的に生きていこうとする）をもたせる。

(イ) 自己の将来の生き方を考える上で、自己の適性の理解、進路情報の理解や活用、望ましい職業観や将来生活の設計等の価値観の形成、などが必要であることを理解させ、今後の進路学習についての目的意識をもたせる。

エ 指導の過程

(第一時)「ライフプランを立てよう」

- ・ ライフプラン作成上どんな（人生における）出来事があるか学級で話し合い、考えさせる。
- ・ （人生における）出来事をどのようにレイアウトしたらよいか説明し、「ライフプラン」をワークシートにまとめさせる。
- ・ 「ライフプラン」を書いているうちに出てきた疑問点や、わからないことをまとめ、進路について自分が何を知らないかを理解させる。

(第二時)「ライフプランについて考えよう」

- 「本時」
- ・ 前時のワークシートをもとにライフプランを数人の生徒に発表させる。
 - ・ 質疑応答によって気付いたことを記入する。
 - ・ 数人の発表の例から、同じ不安をもっていることや様々な進路があること、将来の生き方を考える上で、夢をもつことの大切さを理解する。
 - ・ 質問事項について、進路学習の題材を挙げて関連を説明し、中学校三年間の進路学習について理解を図る。

(第三時)「これからの学習について考えよう」

- ・ ライフプランを実現させるために、現在何をしたらよいか考えさせ、ワークシー

トに記入させる。

- ・ 班の中で、各自で考えたことを発表し、互いに評価させる。
- ・ 進路学習の計画表を見せ、これからの活動の流れや内容について理解を深める。
- ・ 進路学習に対しての目標を考えさせる。

オ 本時のねらい

- (ア) 発表についての質疑や意見交換の中から、将来の生き方を考える上で夢をもつことの大切さや、様々な進路学習の内容があることに気づかせる。
- (イ) ライフプランの発表を通じ、互いに同じような進路に関する不安をもっていることや、様々な生き方があることを理解する。

カ 本時の活動

	活動内容	指導・援助の留意点	評価の観点
活動の開始	<ul style="list-style-type: none"> ○あいさつ ○本時の課題を理解する。 ・ ライフプランを立てる上で必要なことは何か。 ・ 他の人がどんな夢を持っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プリントを配布する。 ・ 本時の題材を板書する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の課題を理解できたか。
活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ライフプランを発表する。 ・ 前時のプリントをもとに発表する。 ・ 発表者以外の生徒は、質問事項をワークシートに記入する。 ・ 聞いていてわからないことを記入する。 ○発表者へ質問する。 ・ ワークシートに記入したことについて質問する。 ・ 質疑応答によって気づいたことも記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビデオ投影機を使用し記入内容がよく分かるよう工夫する。 ・ 代表的なものを選んで発表させる。 ・ 個人のプライバシーの保護や、人権に関する事項について留意する。 ・ 基本的には、生徒の発問によって進めて行くが、今後の学習に関わる部分については、具体的な質問となるよう助言する。 ・ いくつかの質問を、板書する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを分かりやすく発表することができるか。 ・ 話し合いに進んで参加しているか。 ・ 生徒相互の意見の交流は、活発に行われているか。
活動のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの疑問点と、これからの進路学習の内容の関連について知る。 ○不安や悩みを共有する。 ○将来の生き方を考える上で、夢をもつことの大切さを知る。 ○ワークシートにまとめる。 ○自己評価、相互評価を行う。 ○あいさつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質問事項について、進路学習の題材をあげて関連を説明し、中学校三年間の進路学習の流れや内容について理解を深める。 ・ 発表から、同じ不安を持っていること、様々な進路があること、将来の生き方を考える上で、夢をもつことの大切さを理解させる。 ・ これまでの活動の意義や、これからの活動内容について理解を図る。 ・ ワークシートの終わった生徒から、評価カードを配布する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の将来の生き方を考える上で、今後の進路学習で様々なことを学ぶ必要があることがわかったか。 ・ 仲間の様々な進路を聞いて、自分も夢をもとうとする意欲をもつことができたか。 ・ 自分の考えをしっかりまとめることができるか。 ・ 他の人の意見から新しい発見があったか。

キ 評価の観点

(ア) 生徒の活動の評価

- ・ 話し合いに進んで参加しているか。
- ・ 他の人の意見から新しい発見があったか。
- ・ 自分の考えをしっかりと発表することができるか。

- ・自分の考えをしっかりとまとめることができているか。
- ・級友の様々な進路を聞いて、自分も夢をもとうとする意欲が高まったか。
- ・自己の将来の生き方を考えるには、今後の進路学習で様々なことを学ぶ必要があることがわかったか。

(イ) 生徒集団の評価

- ・生徒相互の意見の交流は活発に行われているか。

(ウ) 指導の評価

- ・指導のねらいは適切であったか。
- ・活動内容が生徒の進路学習への関心や意欲を高めることができたか。
- ・活動内容が生徒に自主的、実践的な活動をさせることができたか。

ク 事後の指導と生徒の活動

- ・将来の夢をもてずに、ライフプランが立てられなかった生徒に対し教育相談を実施する。

② 実践の過程

ア 事前の活動

(ア) ライフプランの作成上の出来事の検討

ライフプラン作成上、どのような出来事があるか学級で話し合い考える。(学校、結婚、家庭、住む場所、趣味など)

(イ) ライフプランのイメージづくり

話し合いを進めながら、ワークシートの書き方のイメージを膨らませる。(資料1)

(写真1)「ライフプラン」のワークシートをまとめているようす

(ウ) ライフプランの作成

出来事のレイアウトのしかたを説明し、ライフプランをワークシートにまとめる。(写真1)



(エ) 将来の夢(既習)を参考にライフプランの検討

以前行った将来の夢のワークシートを返し、それもプランの中に書き込む。(資料2)

(オ) ライフプラン作成時に生じた疑問点の整理

ライフプランを書いているうちに出てきた疑問点や、わからないことをまとめ、進路について何を学習するかを理解する。

(資料1)「ライフプラン」のワークシート

ライフプランを立てよう 1年 組 番 氏名 _____

1 これからの人生でどんなできごとがあるか考えてみよう。
出てきた項目をまとめよう

2 ライフプランを立てよう
(1) 将来の夢 ※「進路について考えよう」のプリントから書き出そう。
将来の夢 _____

(2) 私のライフプラン

年齢	プラン	ようす
0		
10		
20		
30		
40		
50		
60		
70		
80		

3 ライフプランを立ててみて、わからなかったことや、困ったことを書いてみよう

(資料2)「将来の夢」のワークシート

進路について考えよう 1年 組 番 氏名 _____

1 将来の夢について
(1) 小学校に入学するころの夢は？

ア どちらかに○をつけて下さい あった・なかった
イ アで「あった」と答えた人は具体的に答えて下さい

(2) 小学校を卒業するころの夢は？

ア どちらかに○をつけて下さい あった・なかった
イ アで「あった」と答えた人は具体的に答えて下さい

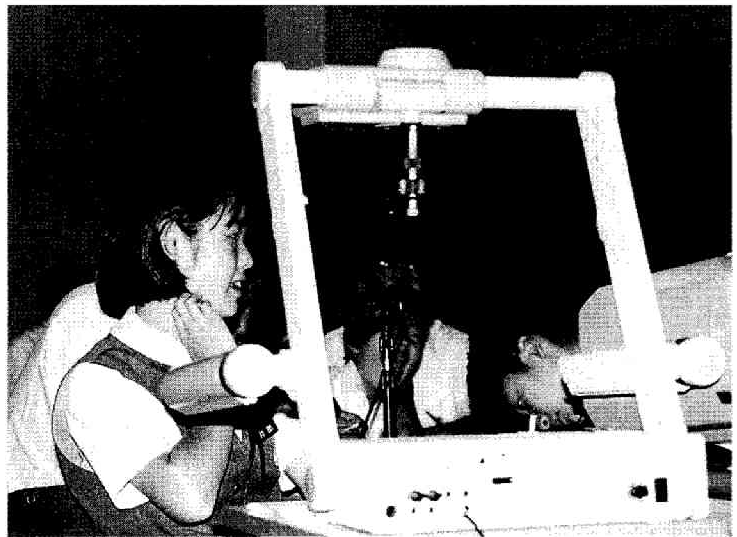
(3) 現在の夢は？

ア どちらかに○をつけて下さい ある・ない
イ アで「ある」と答えた人は具体的に答えて下さい

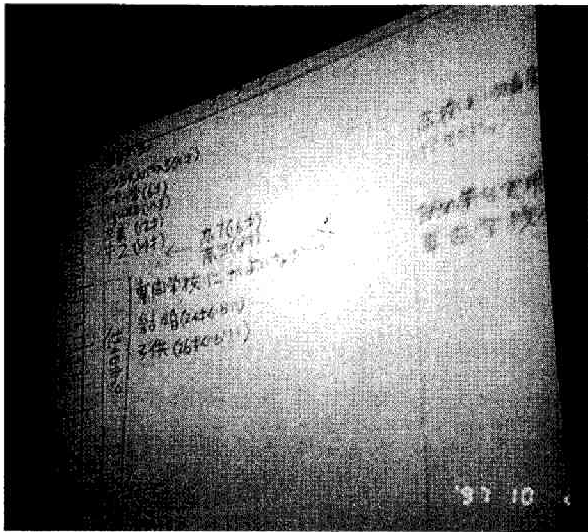
イ 本時の展開

(写真2) ライフプランをビデオ投影機を使って発表しているようす

- (ア) 前時のワークシートをもとにライフプランを数人の生徒が発表する。(写真2)
発表にはビデオ投影機や液晶プロジェクター等を使用し、発表に集中できるように工夫する。(写真3)
- (イ) 発表者以外の生徒は、質問事項としてワークシート(資料3)に記入し、質問させる。(写真4)
- (ウ) 質疑応答によって気づいたことも記入させる。
- (エ) 授業の最後に、評価カード(資料4)を記入させる。



(写真3) ワークシートを液晶プロジェクターで投影



(写真4) 発表者に対して質問しているようす



(資料3) 本時のワークシート

ライフプランについて考えよう

1年 _____ 期 _____ 番 氏名 _____

これから何人かの人にライフプランを発表してもらいます。発表してくれる人の中には、ライフプランがしっかり書けている人もそうでない人も様々な方がいますが、みんなの学習のために発表してくれませう。発表を聞いてしっかり考えてみましょう。

1. ライフプランの発表について質問してみよう。質問に対して答えてもらったら、その答えも書いてみよう。
 聞いていて、おかしいなと思うところや、わからないなと思うところを質問してみよう。

さんに対して	
質問	答え

2. 話し合いでわからなかったこと、共感したことをまとめてみよう。

わからなかったこと	これから学習する内容

2 実践の結果 (評価カードより)

ア 「進路学習はどのように役に立つと思いますか？」

(生徒の感想)

- ・ 自分の夢でよくわからないところが、わかるようになる。

- ほんとうに（今考えている）ライフプランが自分にあっているか考える時に役に立つと思う。
- どんな学校に行けば、どんな仕事に就けるかなどをよく考えなければ行けないことがよくわかったので、役だった。
- 自分が、今考えている仕事以外にどんな仕事があるのか考える時、役立つと思う。

イ 「他の人の意見から新しい発見はありましたか？」
（生徒の回答）

- 夢をもとうと思った。
- 将来の職業は、自分の趣味や特技を生かしていこうと思った。
- 夢をもっていない人がけっこういると思った。
- 消防学校があるのを知った。
- トリマーや、図書館司書という仕事があることを知った。

（資料4）評価カード

この授業を振り返って	1年____期____番 氏名: _____
この時間の授業を振り返って、次のアンケートに答えよう。	
1 話し合いに喜んで参加できましたか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> まあまあ <input type="checkbox"/> いいえ
2 他の人の意見から新しい発見はありましたか？	<input type="checkbox"/> はい (どんなこと?) <input type="checkbox"/> いいえ
3 仲間さまざまな進路を聞いて、自分も夢を持つとする意欲を持つことができましたか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> まあまあ <input type="checkbox"/> いいえ
4 進路学習（職業調べや、上級学校調べなど）の大切さ（必要性）を感じますか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> わからない <input type="checkbox"/> いいえ
5 クラスの話し合い（意見交換）は積極的でしたか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> まあまあ <input type="checkbox"/> いいえ
6 自分にとって進路の学習はどのように役立つかと思いますか？	<div style="border: 1px solid black; height: 50px; width: 100%;"></div>

③ まとめと今後の課題

ア まとめ

- (ア) 他の生徒の発表によって、自分の知らない職業や学校があることに気付いた。生徒の中には、「職業調べ」や「上級学校調べ」などの進路情報についての理解や活用に関心をもつ者がいた。
- (イ) 自己の適性を理解し生かすことが、職業を選択するための要素の一つであることに気付いた生徒がいた。
- (ウ) 夢がないことによって生じている漠然とした将来に対する不安を共有することができた。また、一部の生徒には夢をもとうとする意欲があらわれた。
- (エ) ライフプランの作成とその発表に基づいた進路学習の展開は、進路に対する意識の差や、目的の有無など、多様化している生徒に応じた活動であることが、進路学習への目的意識の高まりが見られたことによって明らかになった。

イ 今後の課題

- (ア) 班単位でライフプランの発表を行う時間を確保することによって、より多くの発表の機会を通して、一人一人の目的意識を一層高めることができると考える。
- (イ) ライフプラン作成時に、生徒が自分の疑問点を整理し、進路について知らないことがあることを気づかせる指導をよりきめ細かに行うことによって、さらに進路や将来の生き方を深めることができると考える。
- (ウ) 本研究における進路学習の導入が、今後の学習活動に効果的に結びついているかを検証していく必要がある。

実践② 目的意識をもった「上級学校調べ」の導入

① 指導計画

ア 題材名 第二学年 「上級学校調べについて考えよう」

イ 題材設定の理由

生徒は、これまでの進路の学習や上級生・卒業生の情報などから、自分の将来の進路に興味・関心を抱くようになってきている。しかし、具体的に夢をもって学校生活を送っている生徒は、少ないのが現状である。また、上級学校進学については、限られた情報や成績のみの偏った考え方でとらえている面もあり、自己の能力・適性・将来の希望（目標）を基に考えるまでには至っていない。そこで、上級学校調べの目的や内容を考えさせ、目的意識をもって主体的に取り組ませるために、本題材を設定した。

ウ 指導のねらい

- (ア) 上級学校調べの目的や内容をライフプランを基に学級で考えることによって、目的意識をもって主体的に生きていこうとする態度（＝生きる力）を育てる。
- (イ) 進路計画の作成や進路の選択の際には、より新しく、正確な情報とその活用が大切であることを理解し、積極的に情報を求めていこうとする意欲や態度を育てる。

エ 指導の過程

- (第一時) ライフプランを立てる。
- (第二時) ライフプランを基に上級学校について、知りたい内容・調べる方法を考えさせる。
- (第三時) 上級学校について、知りたい内容・調べる内容を話し合う。・・・(本時)
- (第四時) 班ごとに上級学校調べをする。
- (第五時) 上級学校について各班ごとに発表する。

オ 本時のねらい

- (ア) 上級学校調べをするに当たって、何に重点を置いて調べるのかを話し合い、目的や調べる内容を明確にする。
- (イ) 話し合いを通して主体的に目的意識をもって上級学校調べに取り組む意欲をもつ。
- (ウ) 生徒一人一人が課題を明確にし、班やグループの話し合いに積極的に参加する。

カ 本時の評価

- (ア) 上級学校について、知りたい内容・調べる内容をライフプランを基に考えて、発表することができたか。
- (イ) 班での話し合いや全体での話し合いを通して、主体的に目的意識をもって上級学校調べに取り組む意欲をもたせることができたか。
- (ウ) 班やグループでの話し合いに進んで参加し、また発表にも意欲的に取り組み、学級に協力することができたか。

キ 本時の活動

	活動内容	指導・助言の留意点	評価の観点
活動の開始	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ 先生の話しを聞いて、本時の学習の課題を理解する。 司会が前に出て準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の題材を書いた用紙を提示し、黒板に貼ることで、本時の課題を理解させる。 「上級学校調べについて考えよう」 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動内容やねらいについて理解し、活動意欲をもつことができたか。
活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> 司会の指示で、生活班から討議する班にする。 上級学校について調べる内容や調べる方法について班で話し合う。 各班で話し合った内容を発表する。 2グループに分かれて、調べる内容や調べる方法について、再度話し合う。 各グループで話し合った内容を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 希望のある、なしで不公平感を与えないように配慮する。 班長の司会のもと、スムーズに話し合いができるように机間指導をする。 黒板に掲示させる。(白色) グループの人数が多いので、全員が話し合いに参加するよう机間指導する。 黒板に掲示させる。(黄色) 	<ul style="list-style-type: none"> 調べたい内容を考えてあるか。 自分の考えを発表することができたか。 話し合いに進んで参加しているか。 発表に関心をもって聞くことができたか。 生徒相互の交流は、活発に行われているか。 発表に関心をもって聞くことができたか。
活動のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 上級学校について調べる内容と方法を確認する。内容の関連について知る。 あいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> 調べる手立てを説明する。 目的意識をもって取り組めるように配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> 何について調べればよいのかを確認できたか。

② 実践の結果

(写真5) 班での話し合い

ア 本時の展開

(ア) 班での話し合い (写真5)

将来の職業について希望のある生徒の班と、まだ決まっていない生徒の班を、それぞれ3班作り、各班ごとに調べたい内容・知りたい内容について話し合い、画用紙の短冊に記入する。

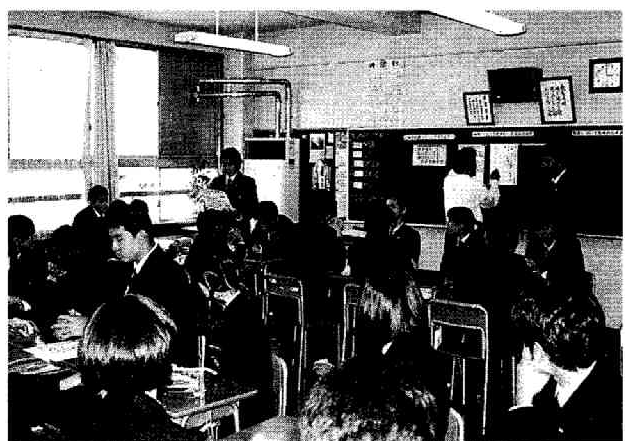


(イ) 班ごとに発表 (写真6)

班ごとに話し合った内容を発表し、記入した画用紙の短冊を黒板に掲示する。

(写真6) 班ごとの発表

(ウ) 2つのグループに分かれての話し合い (写真7) 班で話し合ったことをもとに職業について希望のあるグループとまだ決まっていないグループに分かれて再度話し合い、画用紙の短冊に記入する。



(エ) グループごとに発表 (写真8)

グループごとに話し合った内容を発表し、記入した画用紙の短冊を黒板に掲示する。

(例) まとめ (写真9)

調べる内容について、調べる手立てを考えさせる。また、調べる手立てを簡単に説明する。

(授業後のアンケート)

< 上級学校調べについて考えよう! >

2年 組()氏名

① 上級学校調べをするとき、あなたは何について調べたいと思いますか?

.....

.....

.....

.....

.....

.....

② あなたにとって上級学校調べは、どんな意味があると思いますか?

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

③ 次回に行う上級学校調べをするにあたっての決意または、今日の授業の感想を書いて下さい!

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

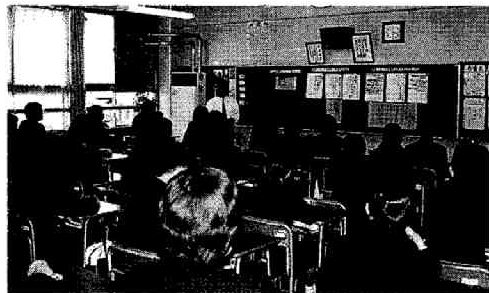
(写真7) グループでの話し合い



(写真8) グループごとの発表



(写真9) まとめ



イ 生徒の感想

(授業後の生徒の感想の主なもの)

- 私は、上級学校についてあまり考えたことがなかったので、授業でいろいろ考えているうちにたくさん知りたいことが出てきたので、上級学校調べで少しでも分かるようになるといいなと思いました。(女子)
- いざ高校を選ぶときに分からないことが出てきて、悩まないように調べたいと思う。(女子)
- 今日の授業で、高校について何を調べればよいのかなどが分かった。みんなで話し合ってみるといろいろな調べることが出てきた。(男子)
- 自分の進路について調べるのだから真剣に調べたいと思う。(男子)

自分の将来のために、きちんと大学関係の事を調べて、おきたい。行事などの事も聞いておきたい。
 自分は、進路が長期的なため、よく話し合いたくて、
 実験はまだないので、本当に聞きたい事が出てこない。
 知らない高校がたくさんあるので、あと調べてみたい。
 いろいろな高校が見てみたいと思う。

自分に、ある高校も、あきらめたりして、今の自分のために、
 高校に行かなくても、自分にとってのいい高校を探して、
 自分にあったものを、自分のために、調べてみることに
 して、今から調べたい。自分にあった学校を探したい。
 今までは、自分のために、調べたいと思っていたが、
 調べてみることで、いろいろな高校を知ることができた。

自分の知らない、進路の事を、自分なりに調べて、
 上級学校の、調べたいところ、です。

さうの研究授業は、ちょっと高校について、
 としやれ、いろいろ調べても、あまりわかりな
 せんてした。将来は最初は、甘んずるには
 かんがえる。さう、と、つづき、と、思ふ、
 ました。さうも、ライフプランを、かきはじめたら、
 少しずつ、めにかかってくるように、なりました。
 さうは、それについて、いろいろ、将来は、太
 だ、と、頭が、ぶんがら、が、さ、こと、だけ、は、
 ちがりました。

③ まとめと今後の課題

ア まとめ

- (ア) 調べる内容について、2つのグループに分けて考えさせた。両方のグループとも部活動・規則・行事などについての質問が多く、ほとんどが共通していた。
- (イ) 職業について具体的に希望のある生徒の班では、「資格を取るためにはどうしたらよいか。」や「免許がとれるのか。」などの自分の将来の職業を考えての質問がいくつかだされた。まだ将来の職業が決まっていない生徒の班では、中学校生活を基準に考えての質問だけであり、両者には質問の内容について差が見られた。
- (ウ) 最初、班で考えさせて次にグループで考えさせたが、他の班の意見を聞いてから考えさせたことによって、さらに深く考えた生徒が多かった。
- (エ) 調べる内容を生徒たちで考えたため、教師側から調べる内容を提示したときに比べて、上級学校調べに主体的に取り組むことができた。

イ 今後の課題

- (ア) 上級学校調べにおいて調べる内容が部活・規則・行事などに偏ってしまう傾向があり、ライフプラン作成の指導を重視し、これをもとに考えることによって自分の調べたい内容が、より具体的になり主体的に目的意識をもった上級学校調べができると言える。
- (イ) 二年次ではなく、一年次の進路学習の導入でライフプランを作り、三年間の進路学習の際にフィードバックし、いつも目的意識をもたせて進路学習に取り組ませることにより継続的な指導となると考える。

3 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

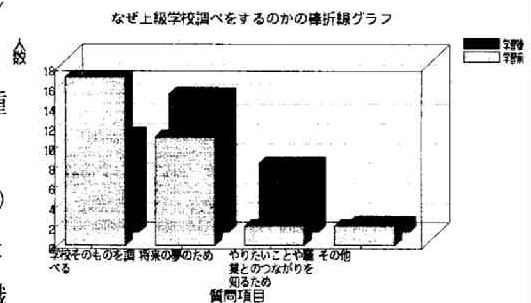
進路学習に当たり、ライフプランの作成を用いた導入や、上級学校調べの内容を生徒自ら考えさせることによって、それぞれが学習に対して目的意識をもって活動できるようになった。このことにより、生徒に主体的に生きていこうとする態度が育てられたと言える。

(2) 今後の課題

今後の課題として、3年間の進路学習に限らず日常の教育活動において、生徒自らがその目的を考える指導を意図的・計画的に行っていけば、主体的に生きていこうとする態度(=生きる力)を育成することができると思われる。

〈参考〉A校で2年生を対象に「上級学校調べ」の前に「ライフプラン」を行い、その前後にアンケート調査を行い、右のような結果になった。

ライフプラン作成以前では、単に上級学校の種類を知りたいという生徒がもっとも多かったが、それ以後は、上級学校調べをその後の進路(将来)と結びつけて考える生徒が増えている。このことから、「上級学校調べ」に対する生徒の目的意識が高まったといえる。



Ⅲ 第2分科会

副主題「生徒会活動に生徒一人一人が自主的・意欲的に参加するための指導の工夫」

1 副主題設定の理由

これからの社会では、生徒自らが身の周りや社会の中から課題を発見し、社会の一員として協力しながら解決を目指して活動する意欲・態度を身に付けることが期待されているが、学校教育においては、このような自発的・自治的態度を養う中心的な活動の場が生徒会活動である。

しかし、生徒会活動の現状は生徒が教師の指示通りに活動することが多く、功利的な動機から活動に参加したり、一般生徒の生徒会への所属感も薄く、学校生活の向上と結びつく主体的な活動となっていない。

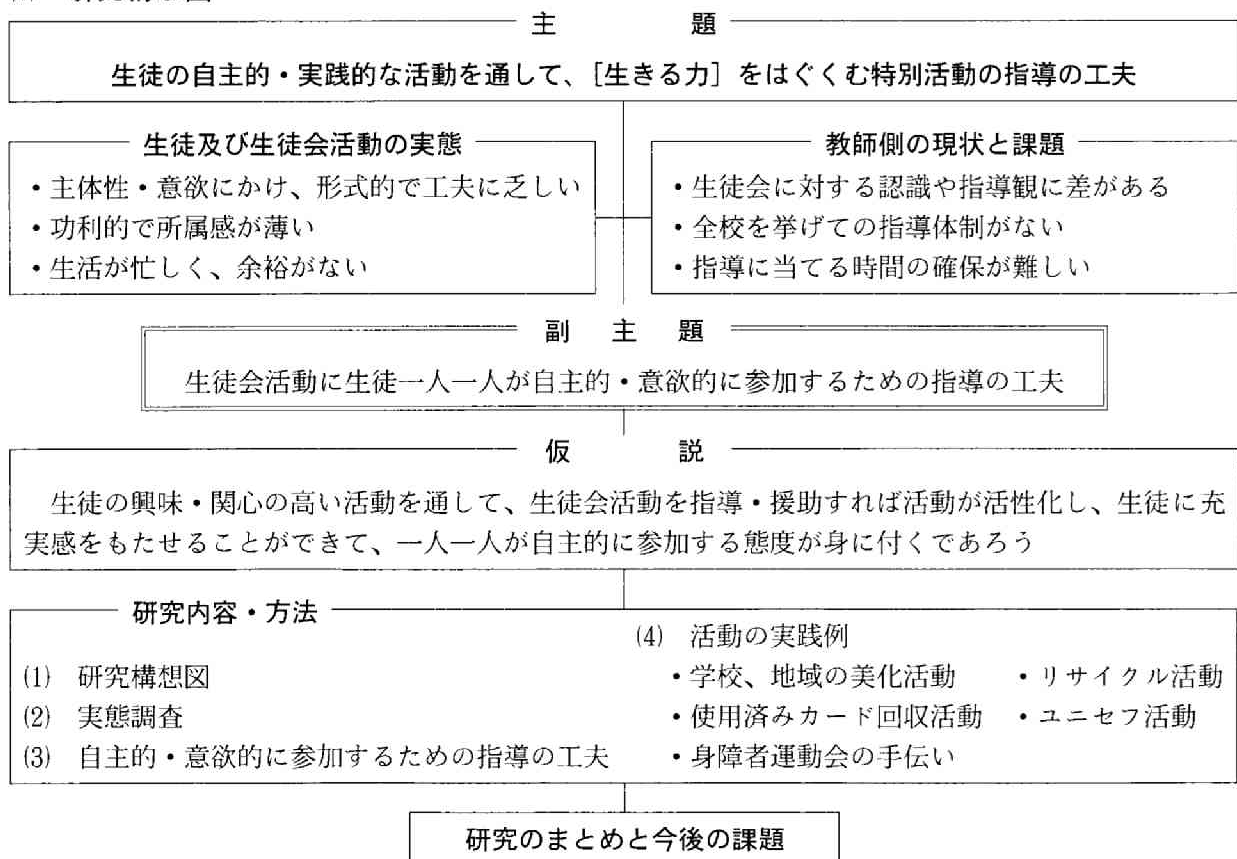
また、指導に当たる教師についても、生徒会活動に対する認識や指導観に差異があるなど共通理解が図れず、全校体制で生徒会活動を支援したり、活性化させるような取り組みがなされていないことが課題として指摘されている。

以上のような状況を改善するには、生徒の視野を身の周りや社会により大きく広げ、様々な問題に気付き、興味・関心をもち、その解決のために生徒会活動を展開することが大切であり、このような活動を支援・助言する全校体制の指導が必要である。

本分科会では、このような指導の具現化を図るため、生徒が活動する意義や喜びを理解して行動するためのボランティア活動を取り上げ、生徒一人一人が自主的・意欲的に生徒会活動に参加する態度を身に付けることで、生徒会活動が活性化し発展することをねらいとして本副主題を設定した。

2 研究の内容

(1) 研究構想図



(2) 生徒会活動に対する生徒意識アンケート（F校の例、全学年対象 対象人数99名）

生徒会活動を活性化させるための指導の工夫や取り組みを検討するため、生徒会活動に対する生徒の意識の実態を下記の質問により調査した。

【質問内容と結果】

グラフ①

質問1 あなたはあなたの学校の生徒会活動が活発だと思いますか。

ア. とても活発だと思う。

イ. やや活発だと思う。

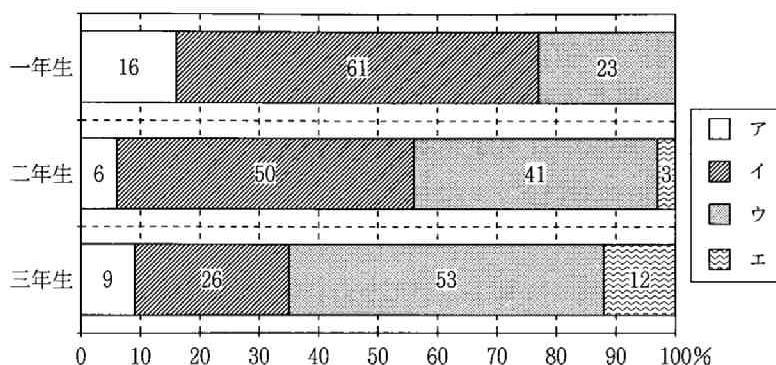
ウ. あまり活発だと思わない。

エ. まったく活発だと思わない。

【ウ、エと答えた主な理由】

1年→活動内容がわからない。

2年・3年→一般生徒の参加の場が少ない。活動がパターン化している。



質問2 あなたは生徒会活動に興味・関心がありますか。

グラフ②

ア. とても興味・関心がある。

イ. 少し興味・関心がある。

ウ. あまり興味・関心がない。

エ. まったく興味・関心がない。

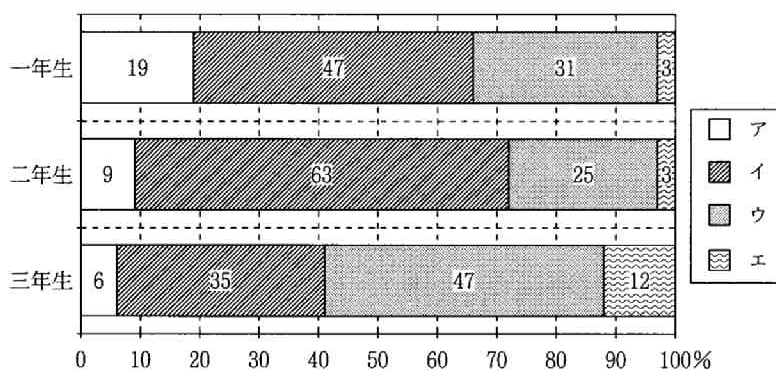
【この主な理由】

○役員、委員会がよくがんばっている。○みんなの力で大きなことができる。

○学校の役に立ちたい、よい学校をつくりたい。○やりがいがある。

●活動内容がよくわからない。

○…積極的な理由 ●…消極的な理由



質問3 あなたは生徒会活動において、みんなで協力して一緒に活動することに充実感を感じますか。

グラフ③

ア. とても感じる。

イ. やや感じる。

ウ. あまり感じない。

エ. まったく感じない。

【この主な理由】

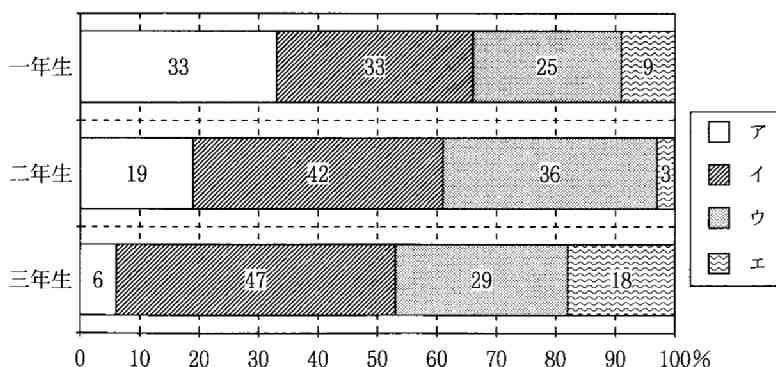
○行事でいい思い出になるから。

○自分たちの学校をつくっている感じがする。

○他学年と仲良くなれる。○自分の活動が認められた経験がある。

●強制的な感じがする。●やっていない人に不公平を感じる。●活動する場がない。

●役員だけしかがんばっていない。



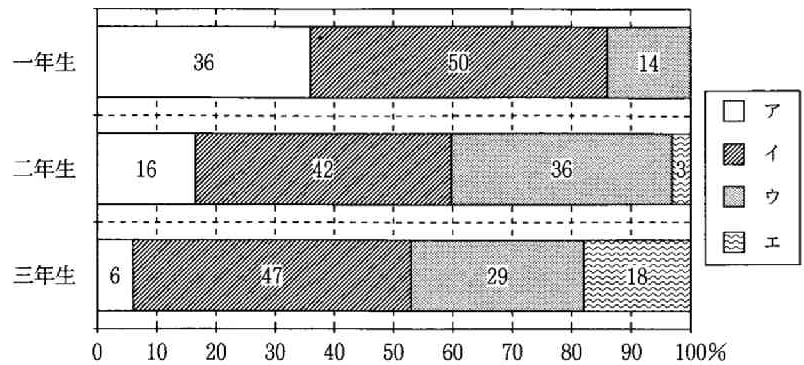
質問4 あなたは生徒会活動が活発になることは自分のためになると感じますか。 グラフ④

- ア. とてもためになると思う。
- イ. 少しはためになると思う。
- ウ. あまりためになると思えない。
- エ. まったくためになると思えない。

【この主な理由】

- 校則が変わる。○活動内容が変わる。
- 学校の雰囲気がよくなる。
- 話し合いがさかんになる。

●一部だけががんばるだけだから。●自分とは関係ないように思える。●面倒である。



質問5 あなたは生徒会活動の改善や新しい取り組みを行おうとした場合進んで参加しようと思いますか。 グラフ⑤

- ア. 進んで参加しようと思う。
- イ. 少しは参加してもよいと思う。
- ウ. あまり参加したくない。
- エ. まったく参加しようとは思わない。

質問6 生徒会活動として、ボランティア活動を取り入れた場合、あなたは参加しようと思いますか。

- ア. とても参加したいと思う。
- イ. 参加してもよいと思う。
- ウ. あまり参加しようと思わない。
- エ. まったく参加しようと思わない。

【この主な理由】

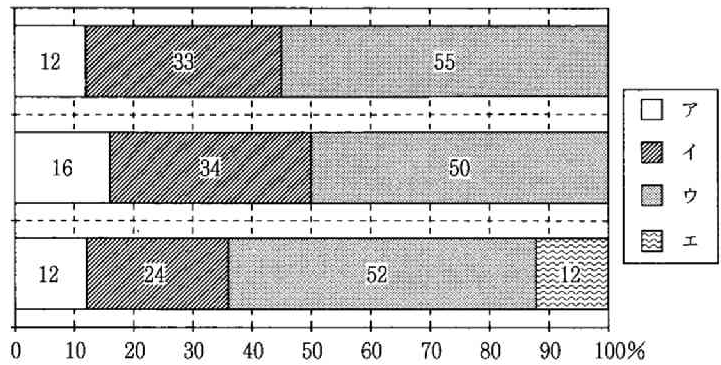
- やったことがない。○達成感を感じよい経験だった。○人のために何かしたい。
- めんどろ。●はずかしい。

【調査結果の傾向及び考察】

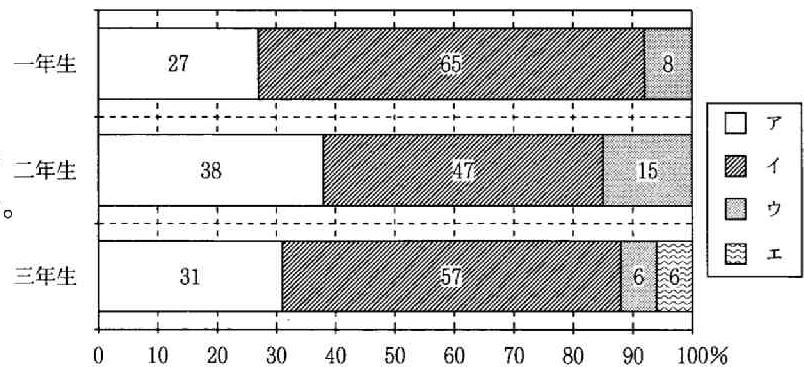
同様の調査を複数校で行ったが、

その結果はおおよそ次のような同じ傾向を示した。

1. 学年が進むにつれて活発化の評価、活動への興味・関心、活動への充実感、自分とのかかわり、積極性などが下がる傾向がある。
2. どの学年ともボランティア活動に対して意欲がある。
3. 生徒自身が生徒会活動の停滞化・マンネリ化を認めてはいるものの新しい取り組みに意欲が少ないのは、教師の指示による活動が多く自主的な活動が期待できないからではないかと考えられる。
4. 生徒はやりがい・自己有用感など意義を感じて取り組める場や人と人とのつながりが結びつく場を求めているのではないかと考えられる。



グラフ⑥



(3) 自主的・意欲的に参加するための指導の工夫

生徒会活動に生徒一人一人が自主的・意欲的に参加し、生徒会活動を活性化させるために、指導の工夫や重点化を図った。

① 指導の工夫の内容

1. 生徒会役員の指導に重点をおいた取り組み
2. 各委員会活動の指導に重点をおいた取り組み
3. 生徒会本部から学級への指導に重点をおいた取り組み
4. 生徒会役員の学習活動に重点をおいた取り組み
5. 広報活動に重点をおいた取り組み
6. 朝礼・行事などを通じて全校生徒に呼びかける指導の工夫
7. 自由参加の生徒による取り組み
8. アンケート調査の実施による指導の工夫

- ・生徒会役員が活動状況を把握し、生徒のアイデアを生かす工夫
- ・生活委員による人権尊重アンケートの実施
- ・生徒会本部の活動に沿って、学級委員会や合同班長会議の実施
- ・区役所訪問やリサイクルビデオの学習会の実施
- ・生徒会広報誌や壁新聞・ポスター等の工夫
- ・朝礼や給食の時間の生徒会役員の呼びかけ、文化祭での呼びかけ
- ・生徒会報を通じての参加申し込みや放送やポスターによる呼びかけ
- ・ボランティア活動に関するアンケート結果を文化祭で発表

② 各校の取り組み内容と指導の工夫の内容 (例)

◎ 重点事項 ○ 関連事項

各校の取り組み内容		指導の工夫の内容							
		1	2	3	4	5	6	7	8
A校	地域美化活動における指導の工夫	◎	○			◎	○	○	
B校	リサイクル活動	◎			◎	○		○	
C校	使用済みカード回収活動	○				◎		○	
D校	人権尊重学習としてのユニセフ活動	○		◎	○	○	○	○	
E校	心身障害者運動会でのボランティア活動	○				○	◎	○	
F校	ユニセフ募金活動	○			○	○	◎		○
G校	ユニセフ学習活動の推進	○		○	◎	○	○	○	

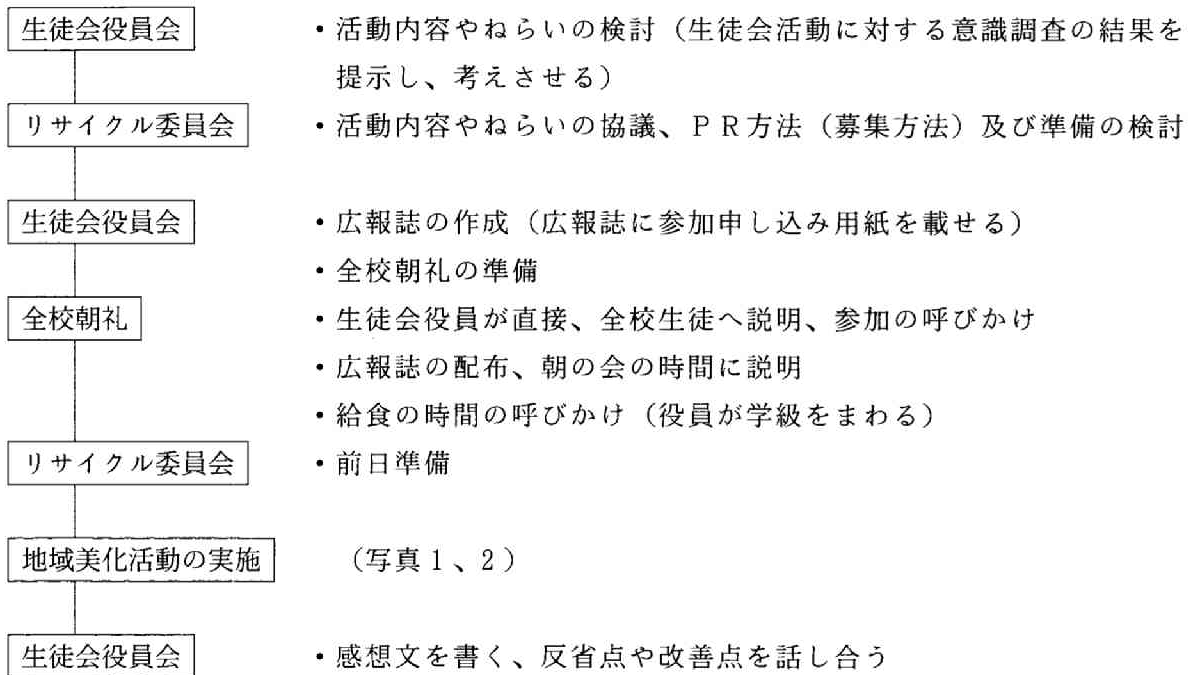
(4) 活動の実践例

〈実践例 1：A 中 広報活動に重点をおいた地域美化活動の指導の工夫〉

① 生徒会活動の活性化のための指導の工夫

- ア 生徒会役員が生徒会活動の内容や意義について検討する。
- イ 生徒会本部より委員会、一般生徒に活動への参加を呼びかける。
- ウ 生徒会役員が全校朝礼で活動の趣旨を説明し、参加について呼びかけたり、生徒会広報誌を工夫する。

② 活動計画



（写真 1、2）学校周辺の落ち葉、空き缶、吸い殻拾い

③ 活動に対する評価

- ア 生徒会役員から具体的な改善点が出され、活動への意欲や自主性が高まった。
- イ 広報活動の結果、多くの参加希望があり学校全体の生徒会活動に対する意識も高まった。

(資料)

地域美化活動への参加を呼びかけるため、生徒会広報誌に活動の目的、日時、場所、内容などを明記し、生徒会役員と関係委員会だけでなく、一般生徒の参加希望を募る用紙を添付した。生徒会広報誌に下記のような参加申し込み用紙を付け、その場での参加申し込みができるようにした。

キリトリ線 「地域美化活動」に参加を希望します 学年 ____ 年 ____ 組 ____ 番 氏名 _____	※ 生徒会活動や美化活動への関心が高まり、予想以上の参加生徒が集まり、地域の実態を改めて知ることができたり、参加者はやりがいを感じることができた。
---	---

生徒の感想

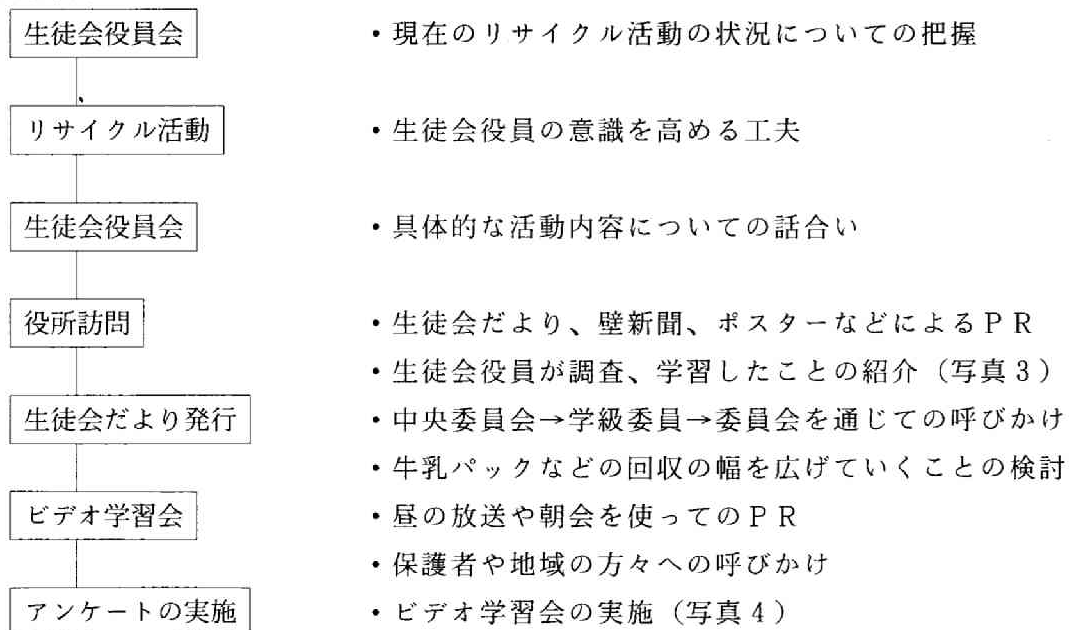
- ・初めは少しやりたくなかったが、参加者も多く真面目に取り組んでいて、とても楽しかった。地域の人に「ごくろうさまです。」と声をかけられ、またやりたいと思った。
- ・ごみの多さにびっくりした。普段から自分たちが気を付けなければいけないと思った。
- ・友だちが「ぼくたち本当に一生懸命やったんだよ。」と言ってくれて、自分たちで決めたことを文句も言わずにやってくれた人がいたんだなあと本当にうれしかった。

〈実践例 2 : B 中 生徒会役員の学習活動に重点をおいた「リサイクル活動」の指導の工夫〉

① 生徒会活動の活性化のための指導の工夫

- ア 生徒会役員の意識を高めるため活動状況の把握を行い、生徒のアイデアを生かすような話し合い活動をしていく。
- イ 区役所訪問や視聴覚教材の使用など、体験から学習が深まるような工夫をする。
- ウ 活動実践後の評価を行い、充実感がもてるように工夫する。

② 活動計画

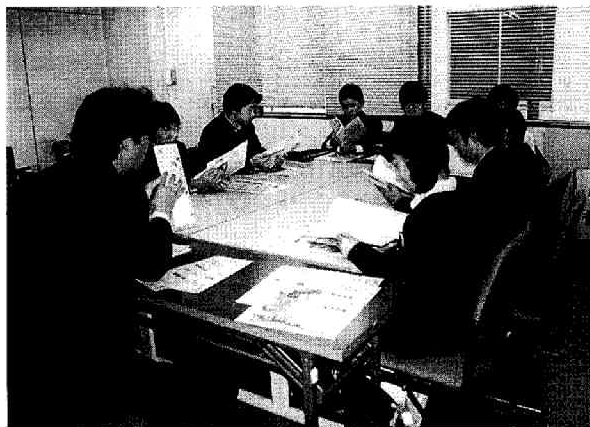


〈役所訪問メモ〉

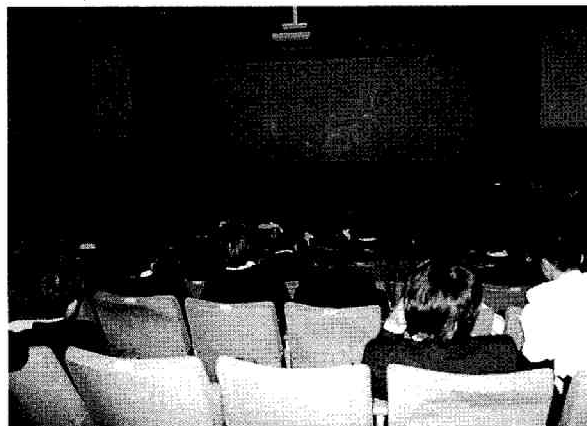
生徒会役員が役所訪問を行い、学習活動を行った。

(資料)

役所訪問メモ	B中 生徒会役員会
Q質問 知りたいこと	A答え わかったこと
<ul style="list-style-type: none"> ・区がリサイクル活動を始めた目的は何ですか。 ・回収されたアルミ缶はどんな物になるんですか。 ・月にどれくらい集まるのですか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの減少と有効活用 ・資源循環型社会の構築 ・溶かしてまたアルミ缶に戻る ・集団回収 (平成8年) 計323,661kg
☆役所を訪問しての感想	
「リサイクル活動とただ一言で言うけれど、その裏には大変さや、奥深さ、重みがあるということを感じた。この経験を生かし、リサイクル活動を広めると共に、自分でも関心をもって活動していきたいと思った。」	
☆みんなに伝えたいこと (生徒会だよりのアイデア・メモ)	
「皆さんの飲み終わったアルミ缶やペットボトル・スチール缶は、ゴミになるよりリサイクルして、またアルミ缶や建築の材料やセーターなどになった方が、地球環境にもとってもいいことです。」	



(写真3) 役所訪問



(写真4) ビデオ学習会

③ 活動に対する評価

ア 学習活動、広報活動への取り組みを通じて生徒会役員の意識は高まった。

イ 「リサイクル活動」においては、地域社会との連携によるところが大きい。

— 生徒の感想 —

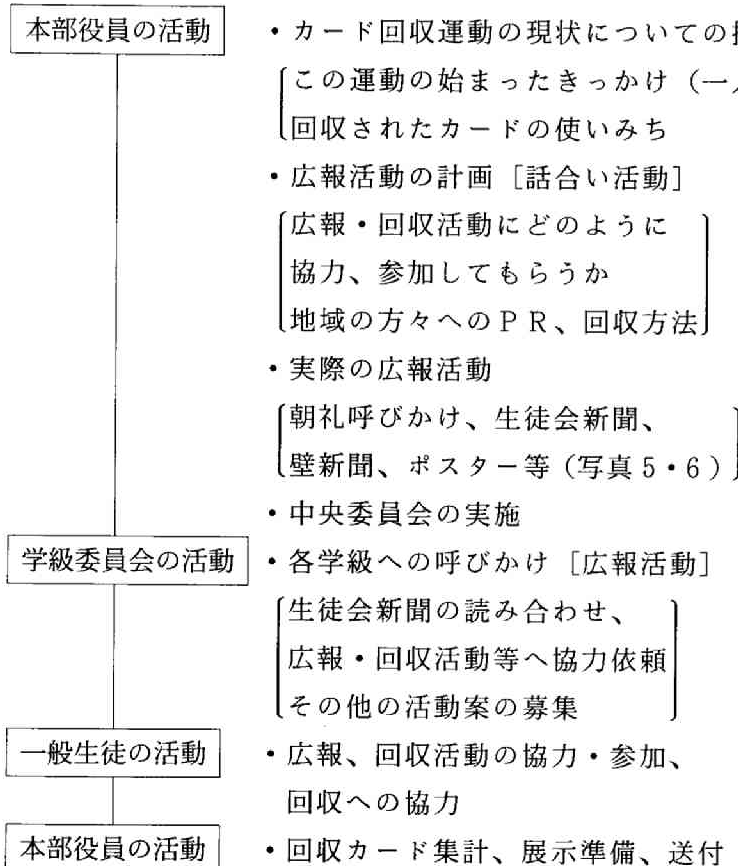
- ・いい経験ができたと思う。初めてわかったこともいろいろあった。
- ・自分でできることはやってみようという気になった。(役所訪問、生徒会役員生徒)
- ・ちょっとしたことで資源を無駄にしないですむということがわかった。
- ・リサイクルできるものはしなくてはと思った。(ビデオ学習会参加者)

〈実践例3：C中 広報活動に重点をおいた使用済みカード回収運動の指導の工夫〉

① 生徒会活動の活性化のための指導の工夫

- ア この回収運動が本校で始まった経緯を全校生徒に説明することにより、一人一人の生徒が及ぼす生徒会活動への影響力の大きさを理解させ、生徒会活動への積極的参加を促す。
- イ 昨年度まで生徒会本部のみで行っていた広報活動、回収運動を学級委員や一般の生徒まで広げることにより、多くの生徒が所属感・成就感をもてるようにする。
- ウ 地域の方々への広報活動、回収運動を行うことにより本部役員目を地域に向けさせる。
- エ 回収されたカードを展示することにより、次回の回収運動への意欲付けを行う。

② 活動計画



(写真5)



(写真6)

③ 活動に対する評価

- ア 様々な広報活動により一般生徒の生徒会への関心が高まった。
- イ 広報活動の結果、予想以上の参加者は出なかったが、今後一般生徒が進んで参加できるような行事を生徒会役員が考えるきっかけとなった。
- ウ 地域への広報などを考えることにより、生徒会役員への意欲が高まった。

—生徒の感想—

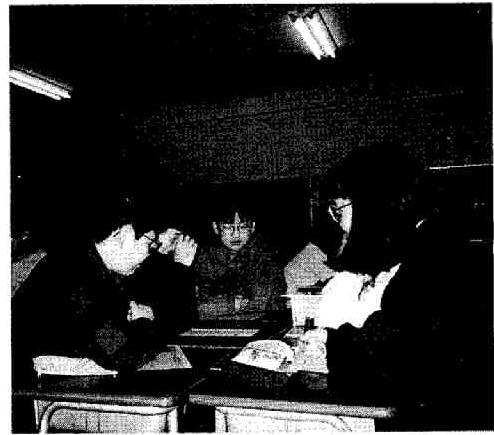
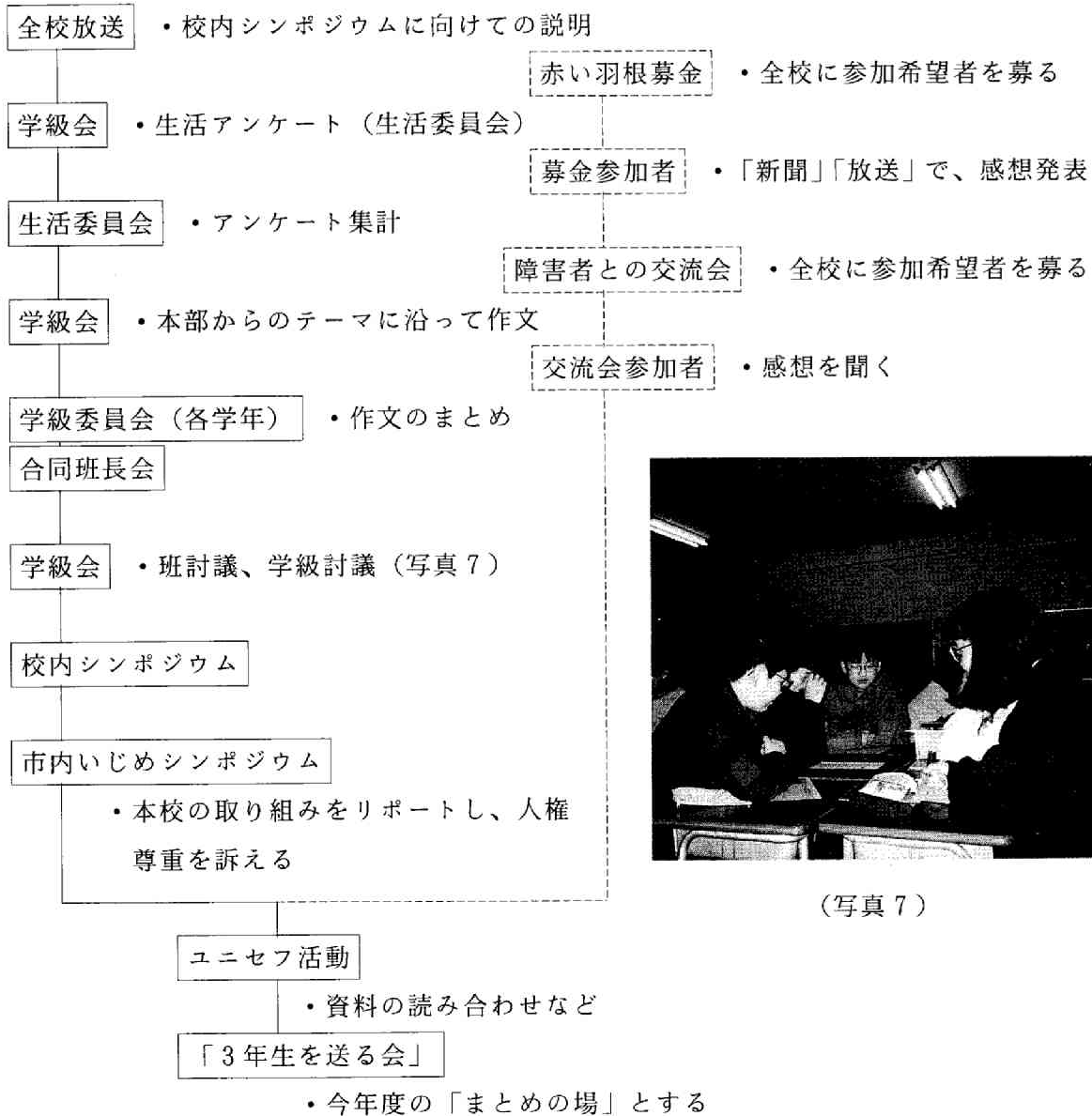
- ・普段も回収箱を設置して欲しい。
- ・今年は参加できなかったが来年はぜひ参加したい。
- ・カード回収活動以外にも、参加できる活動を増やして欲しい。

〈実践例 4：D中 生徒会本部から学級への指導に重点をおいた人権尊重学習の指導の工夫〉

① 生徒会活動の活性化のための指導の工夫

- ア 生徒会本部役員が活動方針・内容を具体的に考えるよう指導する。
- イ 活動内容が各学級に明確に伝達されるように、中央委員会、各専門委員会等を有効に活用し、組織的に指導する。
- ウ 全校放送・本部会通信を積極的に用い、絶えず「全校を挙げた取り組み」であることを意識させる。

② 活動計画



(写真7)

学級討議の結果得られた「意見」を「学級の意見」として、各クラスの学級委員が「校内シンポジウム」で発表する。

1か月以上全校で「きまり」「自由」「いじめ」について考えてきたことのまとめとすることができる。

このような活動を経て、人権尊重学習の一環としてのユニセフ活動に取り組み始める。

③ 活動に対する評価

ア 本部役員は十分に活動の趣旨、内容を理解し、それを実際に推進していく活動計画を考
えることができた。

イ 本部－中央委員会－学級委員－各学級の流れを通して、取り組み内容が生徒一人一人に
伝わった。

ウ 放送や通信による「呼びかけ」を繰り返し、「人権尊重学習の一環としてのユニセフ活
動」が生徒会全体の取り組みとして、全生徒が意識することができた。

〈その他の実践例〉

① 身障者運動会でのボランティア活動

生徒会本部が、障害者合同運動会（写真8、10）のボランティア生徒を募集し、参加生徒の
感想や選手の感謝の言葉などを壁新聞（写真9）にしたり、撮影したビデオを一般生徒に紹介
して生徒会全体の活性化を図った。



（写真8）

—— ボランティア参加生徒の感想文 ——

私は、今までボランティアなどしたことがなかった。
でも友達から誘われてやってみることにしました。
初めは、こんな仕事私にできるの？という不安な気持
ちでいっぱいでした。でも、やってみればとっても面
白くてそして何より一番楽しかったのは、それぞれ障
害をもっている人たちと一緒に、競技に出場したり、
いろいろと話したりとっても楽しかったです。

私はこんなに笑顔が素敵でみんな一人一人楽しそう
にやっていてスゴイと思いました。こんなに頑張っ
ている人がいるのに、私も頑張らなくちゃという勇気が
わいてきました。……



（写真9）



（写真10）

② ユニセフ学習活動を通しての募金活動

毎年行っているユニセフ募金活動の意義を本部役員が中心となり、一般生徒と共に学習することで、生徒会活動の活性化を図る指導の工夫をした。(写真11)

- ・文化祭で舞台発表の場を借り、役員で試写し、選んだユニセフ広報用ビデオを全校生徒に視聴させた。
- ・役員自身がパンフレットなどで学習活動を行った。
- ・事前のアンケート結果を文化祭の舞台、展示の両方で伝え、学習活動への理解と協力を求めた。
- ・学習内容を広報誌にまとめ(写真・図・イラストを多く入れ、1年生でもわかるようにフリガナをつけた)、放送活動により全校一斉に学習活動を行った。
- ・事後のアンケートをとり、成果と課題を知り、次の生徒会活動に生かすこととした。



(写真11) 文化祭での展示

3 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

本研究は「生徒の興味・関心の高い活動を通して、生徒会活動を指導・援助すれば活動が活性化し、一人一人が自主的に参加する態度が身に付き、活動への充実感をもたせることができるであろう。」と考え、各学校の実態に応じた様々なボランティア活動を取り上げ、指導の工夫を行った。その成果をまとめると次のようになる。

- ① 全校朝礼や広報誌などを通して、事前の広報活動を工夫したので、学校全体のボランティア活動や生徒会活動に対する意識が高まり、多くの生徒の参加を得た。
- ② 活動の様子や参加生徒の感想、地域の方からのメッセージなどを事後に壁新聞・ビデオなどで紹介することにより、生徒や教師の生徒会活動に対する理解が高まり、協力的な姿勢が多く見られるようになった。
- ③ 生徒会役員の事前の十分な学習により、適切な活動計画を立てることができ、役員の積極的な参加呼びかけに一般生徒も応え、成果を収めることができた。また、生徒会役員に対する信頼感が増し、役員自身も生徒会活動の運営に自信をもつことができた。
- ④ 地域の人々との交流を通して、自分たちの町についても理解を深めることができた。

(2) 今後の課題

- ① 生徒会活動の活性化を図るため、各教師がそれぞれの適性を生かしながら学校全体の共通目標に向けて指導するために、校内研修などを通して共通理解を図る必要がある。
- ② 学校や生徒の実態を考慮して自校における課題を明確化し、活動の精選や改善を図る。また、ゆとりある指導計画のもと継続的な活動を進めるためにも全校体制での協力や活動時間の確保が必要である。
- ③ 学校の指導のねらいの理解や活動への協力などについて、家庭・地域との連携をさらに強め、活動の成果を高めていくことが大切である。